

「お酒の席での政治談議が苦手ですがどうすればいいですか？」

平成30年5月2日

●ズゴックさんからの質問

仕事関係やご近所付き合いなどのお酒の席で、しばしば政治絡みの話になることがあります。皆の思想信条が近い場合はいいのですが、ときには意見が真っ向から対立して場の雰囲気台無しになってしまうこともあります。そういうときに私はその後のお付き合いのことも考えてしまい、あまり自分の意見を主張できません。私の住む地域は共産党支持者がわりと多いので、地域の会合などで政治の話題になると本当にストレスです。自分の意見を主張したい気持ちはあるのですが、どうせ理解しあえないだろうと諦めてしまっています。西田先生が国会等で議論を戦わせる時は、こういった心の持ち方で臨んでいらっしゃるのでしょうか。アドバイスを頂ければ幸いです。

●西田昌司の答え

先日お亡くなりになった西部邁先生を京都にお招きした時に、日本人の議論下手なことについて西部先生から聞いたことがありました。酒場での会話を横で聞いていると「あの二人は出来ているのでは？」といった聞くに堪えない話ばかりしておるが、外国（例えば、イギリスのパブ）では政治について意見を主張し合っている、日本人は本当に政治談議が苦手だなあ、と先生がおっしゃるのです。

日本人の場合、意見の異なる相手に自分の意見をはっきりと表明すると雰囲気が悪くなって相手からも嫌われてしまう、と考える人が多いのでしょうか。これは日本人の気質なのでしょうし、悪い面ばかりではないとは思いますが、政治のことはお上に任せて我々庶民は口をつぐんでいようという風になっているのは残念に思います。

私は政治の世界の人間ですが、この世界は本当に厄介な世界です。選挙の際に公募するとやって来る人がいて、そのこと自体は非常にありがたいことではありますが、政治の世界を知っている私からすると「本当にわかってやって来ているのだろうか？私ならこんな世界に好き好んで足を踏み入れないのになあ」とも思うのです。

国会における野党との論戦は非常に激しいものがありますが、腹を割って話し合ってみると「表立っては言えないけれども、西田さんのおっしゃることもわかりますよ」と彼らの本音を聞くことができますし、逆に私から彼らにそのような本音を伝えることもあります。私は野党時代に与党の皆さんに非常に厳しい質問をしてきましたし、与党となった今も政府に厳しく意見を述べていますが、政治家という職業は物事の是非についてしっかりと議論をして是正するのが仕事ですからこれは止むを得ません。しかし、普段から喧々譁々の議論をしているからこそ本音の部分ではお互いに理解しあえる部分もあるわけですし、表面上の厳しさの裏にはそういった相互理解の部分もあるのです。

今の私は、財務省の公文書書き換え事件をはじめとする官僚組織の腐敗に対して強い問題意識を持っていますし、野党時代には与党の（マクロ経済を全く踏まえていない、役人に振り回された感の非常に強い）経済政策について厳しく批判してきましたが、と同時に相手を理解する姿勢を忘れないよう心がけてもいるのです。

一般の方々にも政治談議をしてもらいたく思いますが、日本人は基本的にそのようなことは苦手なのです。人間関係を損ねてまで無理にすることもないでしょうが、但し家族に対しては常日頃からやっておくべきだと思います。家族に対してすらも政治談議が出来ないとなると、人は魂の置き場所がなくなってしまうでしょう。まずは家庭において試してみて、それが出来たら外に対しても一歩二歩踏み出して政治談議する相手が見つければ御の字だ、くらいに構えておいたらどうでしょうか。

反訳：ウッキーさん

Copyright：週刊西田 <http://www.shukannishida.jp>